魔法の丘で会いましょう！

江戸川区角野栄子児童文学館（仮称）が2023年7月オープン予定！

絵：くぼしま りお
文：葛山あかね

角野栄子児童文学館が
なぎさ公園にできるんだって!?
角野栄子さんって誰だろう?

それはね…… 詳しくは次のページで

角野栄子
スペシャル
インタビュー

撮影：馬場わかな

角野 栄子（かどの えいこ）

1935年東京生まれ。大学卒業後、出版社勤務を経て24歳からブラジルに2年滞在。その体験を元に書いた『ルイジンニョ少年 ブラジルをたずねて』で、1970年作家デビュー。代表作『魔女の宅急便』は89年ジブリ作品としてアニメーション映画化された。産経児童出版文化賞、野間児童文芸賞、小学館文学賞等受賞多数。紫綬褒章、旭日小綬章を受章。2016年『トンネルの森1945』で産経児童出版文化賞ニッポン放送賞、2018年3月には児童文学の小さなノーベル賞と言われる国際アンデルセン賞作家賞を、日本人3人目として受賞。翌年、江戸川区区民栄誉賞を受賞。

角野栄子さんは児童文学作家、
あの世界的に有名な
『魔女の宅急便』を書いた人だよ
江戸川区と
深い関係があるんだって！

江戸川区と角野さん

右の写真を見て「この人、知っている」「テレビで観たことある！」と思われた方も多いのではないでしょうか。そう、角野栄子さんです。世界的に有名な児童文学作家であり、『魔女の宅急便』の著者。カラフルで可愛らしいファッションでも人気を集めています。

角野さんと江戸川区との付き合いはとても長く、幼少期にまでさかのぼります。

「私は3歳から23歳までを江戸川区北小岩で過ごしました。戦時中、学童疎開のために離れたこともありましたけど、終戦を迎えてまた江戸川区に戻りました。とても庶民的な下町で、ご近所との付き合いも濃厚でしたね。子どもの頃はよく外で遊びました。ザリガニをバケツ2杯分も獲ったり、箒や竹の棒を振り回してコウモリを捕まえようとしたり。

江戸川の河川敷も楽しい遊び場でした。家からゴザをもってきて、土手を上から下までダーッと滑ったり、ゴザがないときには横になってゴロゴロと転がるようにして下まで下りていたから、しょっちゅう洋服を汚していましたね（笑）」

そんな思い出いっぱいの江戸川区にご自身の児童文学館ができると聞いたとき、

「びっくりしました。だって、こうした施設は、夏目漱石や芥川龍之介といった人のものだと思っていたから。でも同時に、思い出深い江戸川区に自分の児童文学館ができるなんて、素直に嬉しいと思いました」。

建設予定地は、南葛西に位置する「なぎさ公園」です。桜やけやきなどの樹木や、つつじやあじさいといった四季折々の花が楽しめる場所であり、ポニーランドも隣接。小高い展望の丘からは旧江戸川が臨めます。

角野栄子児童文学館は、そんな見晴らしのいい丘の上につくられます。まるで花びらのように広がる屋根、豊かな自然に溶け込む白い外観、おうちを連想させる大小さまざまなしかく窓……この建物の存在自体がすでにワクワクする物語の一部のようです。

角野さんは「大人も子どもも自分の物語を見つけられる場所にしたい」と話します。

「現代は多くの情報が出まわり、与えられることが多いでしょう。スイッチ一つでなんでも分かっちゃうから、なかなか自分で探そうとしないのね。でもここでは、自分の目や耳を使って、風景を眺め、風を感じながら本の世界へと入り込めるようにしたい。大人が『この本がいいよ』と指し示すのではなく、子ども自身が心を動かし、面白さを体験し、いろいろなことを感じてほしい。そこから想像力豊かな心が生まれ、育まれると思うから」

いまから開館が待ち遠しい。

※館の名称は、現段階の（仮）のものです。

地図情報提供元:Google, ⓒ2020ZENRIN

物語が始まるのは
「なぎさ公園」から！

どこにもない、
江戸川区だけの魔法の空間
この秋から、いよいよ建設開始！

角野栄子さんの代表作

「魔女の宅急便」シリーズ全6巻
特別編2冊（福音館書店）

『スパゲッティがたべたいよう』
（角野栄子の小さなおばけシリーズ：ポプラ社）

児童文学館の中を少しだけ紹介

館内は圧倒的に可愛い「いちご色の世界」※

大人も子どもも、自分の物語を探す新しい児童文学館！

※「いちご色の世界」アートディレクター：くぼしま りお

「東京2020オリンピック・パラリンピック」
競技大会会場・国立競技場の設計に携わった
隈研吾さんが設計！

撮影：佐山順丸

ACCESS DATA

総合レクリエーション公園（なぎさ公園）
所在地：江戸川区南葛西7－3－1
アクセス：東京メトロ東西線「葛西駅」からバス10分
（バス停「なぎさニュータウン」下車後 徒歩5分）

問 児童文学館開設準備係 ☎5662-9017